

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立吉田中学校	校長	松本 貴文	生徒指導主事	桑田 浩二
-----	-------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『吉中学びの7か条』

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	3	「主体性・次を見通す力」	1	「協調性・継続する力」	2

**取組のねらい『生活規律の定着』**

今年度、本校は授業を通して子どもを変えるために授業改善に取り組んでいる。その内の一つの柱が「授業規律の徹底」である。

従来から吉田中学校の生活信条として掲げてあった「吉中三訓」（時間厳守・挨拶励行・傾聴姿勢）に「整理整頓」を加え、生活規律の定着を図った。

そのために生徒会の学習文化委員会が「吉中学びの7か条」を作成し、具体性を持たせた。また、他の委員会や部長会と協働して内容の充実を図った。



**取組の具体的内容『生徒主体の協働』**

生徒会執行部が組閣された時に吉田中学校の現状と課題を出し合った。その時、生活信条である「吉中三訓」は本校の伝統であり、誇りでもあるが、時間の経過と共に意識が弱まり形骸化しつつあるという意見が出た。そこで、学習文化委員を中心に「吉中三訓」に新たに整理整頓を加えて具体性を持たせることで定着を図ることとなった。そういった中で出来上がったのが「吉中学びの7か条」である。

生徒朝会で生徒会執行部がパワーポイントを使って全校生徒に披露し、「吉中学びの7か条」を拡大した用紙を各学級に配付・掲示している。また、校舎内の掲示板上にも掲示している。7か条の中の、時間前集合（着席）・授業準備・挨拶は学級委員、整理整頓は部長会が中心となって取組を進めている。



**取組の課題・創意工夫『継続と創造』**

**取組の課題** 個々によっても学年によっても意識と定着度に差異がある。今年度から始めた取組であるので、今年度入学した1年生は「中学校はこういうものだ」と守ろうとする意識が高いが、2・3年生はこれまで無かった取組のため、意識も定着度も1年生と比較するとなかなか向上しない。

**創意工夫** 挨拶を活性化させるための手法として、学級



- 吉中学びの7か条**
- 時間厳守**
1. 2分前には集合しよう。
  2. 忘れ物は事前に届けよう。
  3. 次の授業の準備をして休まずしよう。
- 挨拶励行**
4. 相子を見ながら、気持ちよく挨拶しよう。
- 傾聴姿勢**
5. 話を聴くときは、良い姿勢を意図しよう。
  6. 相手の気持ちを感じながら傾聴しよう。
- 整理整頓**
7. カバンや道具はいつでも整理整頓しよう。

委員会を中心に挨拶コンクールを行い、毎週トロフィーと賞状を授与した。また、クラスの団結力を高めるためにクラスカラーを決めて、その色のシールをネームに貼った。また、学期毎に学校生活オリエンテーションを行い、その都度「吉中学びの7か条」を確認した。

### 取組の成果（効果）『主体性への変化』

生徒会の各委員会や部長会を中心に取組んでいる中で、生徒の中に主体性が芽生え始めてきた。挨拶では生徒会執行部が「立ち止まって」することにこだわりを持ち、掲示物を作って掲示したり、生徒朝会でパフォーマンスを見せたりする中で徐々に定着し始めている。また、授業始めと終わりの号令も3年生のあるクラスが進化させた形を



考え、それを全校生徒の前で披露した。現在、新生徒会が組閣されているが、新生徒会執行部も全校生徒の前でパフォーマンスをし、授業に関する号令は3年生が考えた号令で全校統一することとした。

生徒アンケートでは、「学びの7か条を守っています。」は91.7%であった。「吉中三訓+整理整頓」の肯定的評価は93.3%であった。中でも、「挨拶励行」の項目は96.5%であった。

### 今後の展開『意識の向上と発展』

「吉中学びの7か条」は今年度始めた取組である。一定の成果は得られたものの、まだ途中である。他校の先進的な取組を学んだりする機会を持たせると共に質の向上にこだわる。成果と課題を明らかにして、「吉中学びの7か条」の文言の見直しを図る。継続をするだけでは停滞し、やがては衰退していく。常に生徒が向上心を持ち、新しい取組・仕掛けを考えることができるよう、指導者も創造することに努め、発展を促す。

### 他教科との関わり『全教科で取組む』

「吉中学びの7か条」は全ての教科に関わるものである。指導者も妥協することなくこだわりを持って授業や日常生活に臨む。そのために、非常勤講師も同様に取組むことができるように趣旨を伝え、密な連携を行う。